

第8回 薩摩川内市 次世代エネルギービジョン策定委員会 議事要旨

I 日 時 平成25年2月20日(水) 14:00~16:00

II 場 所 薩摩川内市役所 501 会議室

III 出席者(敬称略)

■委員

古川 洽次	日本郵便株式会社 代表取締役会長
荒木 貞夫	荒木商事株式会社 代表取締役会長
宮原 道夫(上菌委員代理)	南日本ガス株式会社 取締役 副社長
金沢 篤宜	富士通株式会社 鹿児島支店長
大矢 文男(川口委員代理)	京セラ株式会社 鹿児島川内工場 副工場長
水町 豊(坂口委員代理)	九州電力株式会社 経営企画本部 長期エネルギー戦略グループ グループ長
三本 积世	Woman 創 ing 会長
田中 陽一郎	公益社団法人日本青年会議所 鹿児島ブロック協議会直前会長
今村 浩(永山委員代理)	南国殖産株式会社 取締役執行役員 都市開発事業部長 企画部長
矢部 彰(野間口委員代理)	独立行政法人産業技術総合研究所 理事
薄迫 利郎	中越パルプ工業株式会社 川内工場長
吉満 祐市	株式会社吉満組 代表取締役会長

■オブザーバ

田上 哲也	九州経済産業局 資源エネルギー環境部 電源開発調整官
永野 詳二(寶満様代理)	鹿児島県 環境林務部 地球温暖化対策課 参事

IV 配布資料

資料1	今次会合の狙い
資料2-1	薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会第7回会合の概要
資料2-2	地域との対話の概要
資料3-1	薩摩川内市次世代エネルギービジョン(案)の全体像
資料3-2	薩摩川内市次世代エネルギービジョン(案)(概要版)
資料3-3	薩摩川内市次世代エネルギービジョン(案)
資料3-4	ビジョン(案)の主な修正点
資料3-5	キャッチフレーズ(案)
資料4	行動計画(案)
資料5-1	行動計画テーマ6 関連:市内資源も活用した地域型産業の振興
資料5-2	行動計画テーマ7 関連:本市農林水産力の向上
資料6	今後のフォローアップ(案)

- 資料7 平成25年度当初予算案等における主要関連項目
資料8 薩摩川内市における具体的取り組みに関するコメント（柏木委員提出資料）
参考資料1 国のエネルギー政策及び関連予算の動向
参考資料2 電力システム改革の動向
参考資料3 平成24年度まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業（国交省事業）の採択

V 会議進行

1. 開会

- ・第8回薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会が開会された。

2. 事務局

- ・事務局より委員代理の案内がなされた。

3. 委員長あいさつ

- ・古川委員長よりごあいさついただいた。

4. 議事

- ・議事進行は古川委員長により執り行われた。

(1) 今次会合の狙い

(2) 薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会第7回会合の概要

(3) 地域との対話の概要

- ・事務局より、資料2-1～資料2-2を用いて説明がなされた。

(4) 薩摩川内市次世代エネルギービジョン（案）の全体像

(5) 薩摩川内市次世代エネルギービジョン（案）（概要版）

(6) 薩摩川内市次世代エネルギービジョン（案）

(7) ビジョン（案）の主な修正点

- ・事務局より、資料3-1～資料3-4を用いて説明がなされ、以下の議論がなされた。

（古川委員長）全体を通して感じたことは、アンケートについては詳しく分析されているが、地区コミュニティとの意見交換でご苦労された点については、項目立てして記載されていない。アンケートの結果と地区コミュニティの話で重複していない部分は記載していただき、完全に同じであればその旨記載して頂きたい。また、地区コミュニティは薩摩川内市の特色であり、誇りとすべきところである。他の都市と差別化するという意味でも、ビジョン本体で触れた方がよいだろう。

（事務局）事務局で検討したい。

（荒木委員）他市町村との差別化は1つのポイントであるので、地区コミュニティについて本文で触れた方がよい。

(古川委員長) 薩摩川内市は、山、川、平野、海があり、そして離島もあるので、日本のミニチュアのようなものである。人口 10 万人の中核都市であり、何かまとまったことをしようと思えばしやすいスケールメリットもある。これも他の市町村との違いである。

(事務局) どの程度まで記載できるか、工夫したい。

(荒木委員) 鹿児島県の新エネルギービジョンとの関係について、本ビジョンにどのように反映されるのか。

(事務局) 当初より、エネルギーの賦存量や潜在可能量などはやりとりをしている。そういったファクトの部分は違いがないよう、共有できるようにしたい。

(永野様) 鹿児島県の新エネルギービジョンは、今年度中に公表予定であったが、今回の改訂では国のエネルギー政策を踏まえるということもあり、公表は来年度の予定である。本市のビジョンとは賦存量の部分しか関わりはないので、内容については特に支障はない。本文中の「次世代自動車」と「エコカー」の表現は整合をとっていただきたい。また、P63、P64 図中に PHV も追加してはどうか。

(事務局) エコカーと次世代自動車の表現について、整合性も含めてチェックしたい。また、PHV のお話も盛り込んでいけるようにしたい。

(8) キャッチフレーズ (案)

・事務局より、資料 3-5 を用いて説明がなされ、以下の議論がなされた。

(古川委員長) この 3 つの案について、例えば広告代理店などにご意見いただいたことはあるか。

(事務局) 広告代理店に頂いた案はないが、作成の過程での言い回しや考え方などについては話を伺っている。前回の委員会では、全員の委員が納得する案を提示することが出来なかった。

(今村委員) 永山委員代理で出席しているので、永山委員の意見を申し上げたい。キャッチフレーズは「(2) スマートに変わる！」がよく、サブタイトルは「(3) ～みんなで創るエネルギーのまちの未来～」が良いという意見であった。

(大矢様) 10 万人の薩摩川内市民すべてに通じることが大事なので、「(3) エネルギーのまち薩摩川内」が良い。サブタイトルも「～みんなで創るエネルギーのまちの未来～」が良いと思う。

(宮原様) 上菌委員は、あえて選ぶならば「(1) 超スマート！薩摩川内市」がよいが、古川委員長に一任するということがあった。

(古川委員長) 3 つの案それぞれにご支持を頂いた。キャッチフレーズについては、大変恐縮ではあるが、委員長に一任とさせて頂きたい。

(9) 行動計画 (案)

・事務局より、資料 4 を用いて説明がなされた。

(10) 行動計画テーマ 6 関連：市内資源も活用した地域型産業の振興

(11) 行動計画テーマ 7 関連：本市農林水産力の向上

・事務局より、資料 5-1、資料 5-2 を用いて説明がなされ、以下の議論がなされた。

(荒木委員) 雇用の創出が最終的なテーマだと思う。過去の時代は、豊富な労働力や広い土地を求めて地方に企業誘致されてきていたが、今はそういったことはなくなった。東京や福岡にも薩摩川内会があるので、参加されている方に協力してもらい、ニーズを頂いて、事業についての提案などを頂いてはどうか。かなりの起業家の方もいらっしゃるし、広い友人関係のつながりも持っているらっしゃるだろう。

(事務局) シーズを探すとということだろう。大切なことである。

(田上様) ビジョンの具体的なアクションとして、行動計画を 10 個取りまとめられており、ビジョンが生きていくだろう。いろいろな委員会に参加しているが、地域の課題や資源が盛り込まれており、正直ここまで掘り下げて頂いたものは中々ない。非常に期待している。よりスムーズに進めるためには、庁内の商工労働部や農林水産部などとの連携・協力・共有が重要となる。この関係はどうか。また、企業やキーパーソンなど具体的な事業の主体は考えているか。また、今朝の NHK で「おれんじ鉄道」の取り組みが紹介されていた。オーシャンビューの車両に変えて、地産地消で観光客を呼び込もうという、まさに地域資源をうまく活用した地域活性化、地域産業の育成であった。フォローアップのときには、このように地域の魅力を発信し、PR していくことが大事である。地域の方も結集し、興味を持って持続していくだろう。

(事務局) 市役所内の体制について、一昨年 10 月に新エネルギー対策課を立ち上げた際、同時に横断的な議論ができるプロジェクトチームを立ち上げており、ビジョンの策定委員会に臨む前に半年ほど議論をしてきた。ビジョンの策定委員会のアウトプットについて、その都度プロジェクトチームに反映して進めてきている。プロジェクトチームは、実務を担当する課長レベルの集まりなので、さらに上の役職への説明は、庁内の会議にて何度か行ってきた。今後、施策を実施するには、部をまたいで関係部署と連携していくことが不可欠である。多少の組織内でのあつれきがあるとはいえ、岩切市長が次世代エネルギー分野に力を入れる方向性であるので、部局内をまとめて具体的な事業化へつなげていきたい所存である。フォローアップについて、誰が担うのかは記載している。ビジョンや行動計画を実施するために、どういうアプリケーションを持ってくるかが大事である。そこは、事務局の営業活動にかかっていると思う。適切な仲間作りをするために、ビジョンや行動計画を念頭に置きながら日々営業活動を行うという地道な活動が求められている。今朝の NHK 九州ローカルの番組内で肥薩おれんじ鉄道が 3 月に導入する「おれんじ食堂」が紹介された件について、おれんじ食堂を導入するにあたって、地域の美味しいものを車両内で提供していき、その活動を通して地域の活性化を図っていくというニュースであった。肥薩おれんじ鉄道の社長と営業部長にお会いしたことがあり、我々の取り組みとの接点があるかどうかお話したことがある。社長はホテルマンとしての経験が長く、お客様へのおもてなしについて、とても勉強になった。今後、皆様のご意見を頂戴しながら積極的にプロモーションしていきたい。

(矢部様) 10 の行動計画をまとめられているが、産業活動については具体的な取り組みが見えにくい。地域型産業、農林水産、観光について、施策に行き着かないがニーズがあるということは書き込んだ方がいい。例えば農林水産では、60 代~70 代の従事者が増える一方で、付加価値がでてこない。エネルギーからの視点からみるとどうか。提案されたものの経済性が成り立つかどうかは検討する必要がある。産業は、ニーズがしっかりあることに重点を置いて書いた方がよい。

(事務局) 他の部署がメインだったため、しっかり書いていなかった。現段階でのニーズについて、関係部署と話し合って可能な限り書き込んでいきたい。経済性の話は二の次になってしまうかもしれないが、ニーズの把握はしっかりと行いたいと思う。

(古川委員長) 本日の2つの行動計画は、何をするのか見えにくい。これが一番難しい問題だと思う。私は、毎週1度は全国の郵便局に視察へいくのだが、全国には2万4000もの支店が存在している。今まで1060局ほどまわったのだが、1日8~9箇所まわるので、全国くまなく120箇所ほど視察へいった。地方で最も困ることは、昼食をとる店がないことである。へき地へ行くほど食堂などがなく、人の集まる場所がない。あるのは幹線道路沿いにある全国チェーン店のみで、地元産は道の駅にしかないような状況である。これが過疎化の実態である。地元産のものを食べられるような仕組みがあればよいが、経済性が成り立たない。車社会なので、信州や東北などの道の駅では、季節のフルーツがたくさん並んでいて、そこが個人商品の中継点になっている。ただ、全く何もない道の駅もあり、地域によって千差万別である。しっかりとマーケティングをしなければうまくいかない。ただ、鮮魚が水揚げされるような地域は賑わっている。そこからクール便で発送することが多いのだが、最も良いものが東京に行ってしまうのが問題である。地元産を流通させるにはしっかりとしたルートを作らなければならない。生産者の名前を記載して農産物を置いており、一つのマーケットになっている。ただ、鹿児島県の道の駅はさほど賑わっていないようにも思う。ロードサイドに箱を置いてお金を払うスタイルがまだ多いように感じる。

(三本委員) 大型店舗が参入しており、地元のスーパーマーケットは苦戦している。値段が高くて売れる良いものは東京へ出荷し、規格外や少しキズがあるものなどは地元で安く売ると良いと思う。自分達が生産しているので、地元では高いものを買う意識はあまりない。農業は利益が出にくく大変なことが大きな問題なので、良いものは付加価値をつけて高く買ってもらい、利益が出るようにすれば活性化するだろう。鹿児島県は黒豚など美味しい素材が揃っていると思う。利益が出るような形でどう売っていくかが重要だろう。そこに新エネルギーをプラスして応援するような形が良いと思う。また、先日の講演会での話だが、都会から見た薩摩川内市は、Dr.コトー診療所の島のイメージだということであった。医療の発達や温泉での癒し効果など、心が洗われることをテーマとしてはどうかというご提案を頂いた。観光や地域興しと連携して、横のつながりで進めていかなければクリア出来ない問題もあるし、連携することでさらに良いものが出来るだろう。

(金沢委員) 資料4、14ページ、テーマ1のロードマップをみて、市民にご理解頂くのは難しいように思う。短期・中期・長期とステップ毎にどのように進めていくのか見えてくれば良いと思う。また、富士通はITで支えていきたいと考えている。例えば、会津若松市は観光が大きな柱であるが、東日本大震災により観光客が激減している中で、着地型観光という、訪れた観光客が自分で最適な車で観光するルートを作れるようなクラウド型サービスの取組みを始めている。様々な案があるので、短期・中期・長期のそれぞれで、薩摩川内市にとって良いものと考えていきたい。また、農業について、JAさつま、JAさつま川内、JA伊佐が合併したJA北さつままでは、県内の農業高校の校長先生と組合長が集まって、これからの農業の担い手に関する検討をしており、そこに富士通も出席している。農業においても、ステップ毎にイメージをどう作り上げていくか、市民に見えるように具体化していくことが課題だと思う。

(水町様) 昨年7月に固定価格買取制度が始まって以来、様々な委員会に出席しているが、最後は誰が

何をするのか見つからなくて事業として成り立たないケースや一時的に市から補助して頂いても続かないケースが多い。実現性の高く、現実味のあるものを早めに形にして成功事例を作ると、進んでいけるのではないかと。営業を強化することもある。ビジョンの完成度が高いので、市内だけでなく外に向けて発進すると、外から声がかかるかもしれない。

(宮原様) 若年層人口の増加や雇用を増やすということで、テーマ6が重要だと思う。他都市にはない基幹エネルギーをどのように生かせばよいか。資料5-1、3ページの赤字部分がまさに重要な部分である。また、資料5-2、テーマ7について、トリジェネレーション¹が本市で可能かどうかなど、出来ることは協力したい。出来るところから進めていければと思う。テーマ9やテーマ10について、試験的にでも具体的な取り組みを進めると次の段階が見えてくるのではないかと。

(薄迫委員) ビジョンが本当によくまとまっていると思う。経済性の精査がなければ実行できないと思うが、多くの提案がなされ、それに対する課題も挙がってきている中で、まだまだすべき事はあろうと思う。エネルギーに関わる事業において、分からない部分や知らない部分も多いが、委員会や推進協議会で議論を進めていく中で、素晴らしいものが出てくると思う。ただし、薩摩川内市は一次産業がポイントとなるだろう。この活用はエネルギーとすぐに結びつくので、よい取り組みとなるだろう。今はまだビジョンであるが、検討を進める中で形となることを楽しみにしている。

(吉満委員) 薩摩川内市では、一次産業が最も危ない状況にある。そこに次世代エネルギーがどう貢献できるかである。一次産業が一次産業を支援するような次世代エネルギーの使い方を考えると、ハウスの燃料にバイオマスを利用するなど次世代エネルギーの活用による支援が出来るのではないかと。農繁期、農閑期について農家の方と話をしたのだが、寒い時期は何も作れないということであった。ハウスを使っても燃料代がかかる。そこでバイオマスボイラーである。今は2mの丸太をまるごと1本入れられるようなボイラーがある。間伐材を上手く活用することも考えられる。また、学校では「弁当の日」というのがある。子供達が自分でメニューを考え、買い物をして弁当を作る取り組みである。教育の段階から食べ物に対する感覚や一次産業への考え方もよくなっているのでは、その辺りも期待したい。

(田中委員) プレイヤーが誰かが最も重要である。スマートアクセスについて、市内タクシーやバスは減少している。需要がないので供給サイドが減らしていくのは当たり前であり、そこで誰が動くかである。企業がどう動くかイメージ出来ない。これらのテーマ全てがうまくいけば、市の総生産が上がることは容易に想像できるが、誰がどう動くかである。

(大矢様) 私どもは、楽観的に構想し、悲観的に計画し、楽観的に実施するという考え方で仕事を進めている。現在は、楽観的に構想して悲観的に計画するところまで来ているが、この先が難しい。例えば、自動車のオートギアのバルブを製造している名古屋のあるメーカーは、終身雇用制である。中小企業で、リーマンショック以降16億円ほどの売上げしかなかったのが、32億円まで上がっている。多くの企業がインドやベトナム、中国へ生産拠点を移す中、そこを勝負できると言っているのだが、それは何故か。バルブを作る際に1軸の旋盤を使うのだが、そのメーカーは、今までの設備を過去に遡ってみると6軸の旋盤があり、そこに目をつけた。それは2年前に日本では廃盤となったものである。設備を使いこなすまでに約10年かかり、メンテナンス出来るま

¹ コジェネレーション (=電熱併用) に対して、熱源から生産される熱、電気に加え、発生する二酸化炭素も温室栽培などで有効活用するエネルギー供給システムを意味する。

でに 20 年かかる中で、55 年間勤務した 70 歳を超える方が若い方へ技術を教え込み、コスト的に 10 分の 1 くらいで生産できる状況になったことで、海外とも十分勝負できるようになった。発想を豊かにすることで、色々と可能性は広がると思う。

(今村様) 農業について、まとまった耕作放棄地を取得できる方法がこれから議論されると思う。そこに次世代エネルギーをどうミックスするかである。また、観光について、イメージアップ作戦、PR が大事である。例えば、ラッピングバスは大賛成である。また、夏に着る大綱引きのポロシャツに次世代エネルギーのキャッチフレーズをプリントし、民間企業や役所で着ることで、電源立地の街だが再生可能エネルギーに本気で取り組み始めたという印象を与えることができる。そういったところから始めてはどうか。また、観光ツアーは、小中学生でも 1 日でまわれるようなルートから考えてはどうか。出来るところから実行していけば、前に進むだろう。

(古川委員長) 行動計画 (案) について、ご賛同いただいた。具体的なシーズやニーズについては、どんだん事務局へご連絡いただき、内容を充実させていきたい。

(12) 今後のフォローアップ (案)

- ・事務局より、資料 6 を用いて説明がなされた。

(13) 平成 25 年度当初予算案等における主要関連項目

- ・事務局より、資料 7 を用いて説明がなされた。

(14) 薩摩川内市における具体的取り組みに関するコメント (柏木委員提出資料)

- ・事務局より、資料 8 を用いて説明がなされた。

(15) その他

- ・事務局より、参考資料 1～3 を用いて説明がなされた。

5. 閉会

- ・第 8 回薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会を閉会した。

以上